

# 御殿堰 大黒天便り



## ◆第十号◆

山形市中心市街地を流れる御殿堰。その豊かな水の流れを見守っているのが私「御殿堰大黒天」です。



「大黒天便り」では、わたし大黒天が御殿堰の歴史・季節の話題・生活の知恵など『なるほど!』と思っていただけの内容をお伝えしていきたいと思っています。今回は第十号です。

## ◆御殿堰での発見◆

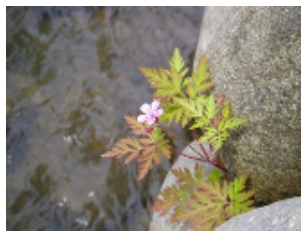
御殿堰沿いの柳。小さかった新芽が、今では鮮やかな薄萌黄色の葉となり、春らしい情景を過ぎ、初夏の訪れを連想させる情景に移ってきているようです。

御殿堰は、石積の水路となっていて、今年春は、石と石の間から様々な植物が芽吹いています。可愛らしい花が咲いている所もあります。

昨年はポランティアの方に「苔貼り」をしていただき、御殿堰に苔の緑色が加わりました。今年は、自然の営みの中から新たな緑色・花の色が加わっています。

御殿堰沿いをゆったりと歩くと、小さな発見が日々あります。

七日町へお越しの際は、御殿堰沿いをゆったりとご散策ください。



## いんねがつす

季節毎の「ほう?」「いんねがつす」な話をさせていただきたいと思えます。様々なウンチク・四方山話をネタに、日本文化・山形文化の素敵な所を皆さんで共有していきたいでしょう。

(こちらのコーナーでは御殿堰にて皆様をお待ちしている各店舗御主人にご協力いただき作成していきます)

## 『山形紅花まつり』

エジプト原産といわれ、古くから世界各地で栽培されています。日本にはシルクロードを経て四〇五世紀頃に渡来したといわれています。古くは和名を「くれのあい(呉藍)」といい、中国伝来の染料との意味となります。

高さは一m。花期は六、七月で、枝先に頭状花をつけます。花は、はじめ鮮やかな黄色で、徐々に赤くなっていくのです。

日本では、平安時代に千葉長南町で盛んに栽培され、江戸時代中期以降は現在の山形県最上地方や埼玉県桶川市、上尾市周辺(桶川宿の頁を参照)で盛んに栽培されました。しかし、明治時代以降、中国産の紅花が盛んに輸入され染料が普及したことから、こうした紅花生産は急速に衰退。現在では紅花染めや観光用などにわずかに栽培される所が多いようです。

かつて山形県は紅花の一大産地でした。この花は京都で真っ赤な紅となり、女性の唇を彩り、衣装を真紅に染め上げました。一九八二年には、山形県の県花に選定。近年は自然染料として見直されてきており、山形県内では昔ながらの製法で作られた紅もちやすり花が生産されています。

山形県の県花でもある紅花。江戸時代には「最上紅花」として京の都では「金」の価値があるものとして珍重されていました。

紅花は、米の百倍、金の十倍という貴重品のため、水にぬれるのを懸念し、最上川舟運の難所「黒滝」開削後も危険箇所は、馬による陸送がなされましたが、山形舟町・大石田・酒田と最上川を下り、日本海を北前船で敦賀に荷揚げされ、琵琶湖を経て、大津・京都と運ばれ、鮮やかな紅や衣装とされ、時の女性たちを魅了しました。

紅花は、一駄(二〇kg)単位二三〇kgの袋を四つにしましたが、その包み紙に、置賜領内では「深山和紙」が使用されていました。

俳人芭蕉は、一六八九年に奥の細道を旅し、つぎの句を残しました。  
眉掃きを俤にして紅粉の花  
行く末は誰が肌ふれむ紅の花

このように、山形・白鷹と歴史文化的に深い関わりをもち、祖先が藩財政のために一生懸命栽培していた「紅花」を江戸時代同様に栽培加工し、地域づくりや交流観光など、地域の活性化と美しいむらづくりりに役立てられています。

◆紅花まつりが開催されます◆  
【日程】二〇一一年七月九日・十日  
【場所】高瀬紅花ふれあいセンター  
【お問合せ】山形紅花まつり実行委員会  
【電話番号】〇二(三六八六)三三四一

紅花染の小物を、御殿堰内「結城屋」にて取扱をしております。ポーチ・香袋など様々な小物がありますので、是非ご覧ください。

## 山形あれこれ

### ⑧ 御殿堰大黒天

水の町屋御殿堰に祀られている御殿堰大黒天は七日町縁の寺「大竜寺」に祀られている江戸時代の乾漆大黒天をモチーフにデザインされました。御殿堰大黒天は、山形出身の工業デザイナー・奥山清行氏がデザインをし、山形市の伝統工芸である「山形鋳物」で造られています。

御殿堰を訪れる方々に親しみをもっていただけるように、非常に柔らかくで穏やかな表情となるようにデザインされました。

御殿堰ではなぜ大黒様をお祀りしているのでしょうか?七日町に大竜寺というお寺があり、そこには江戸時代の乾漆の大黒様が祀られています。真っ黒な大黒様ですが、写真を撮って奥山氏に送り大竜寺の大黒様をモチーフにデザインを依頼したのでした。

イザベラバードというイギリスの女流旅行家が明治時代初期に日本を訪れているのは御存知の方も多いかと思えます。新潟から山形に入り、小国・川西・赤湯を通って山形に入り金山の方へ行っています。この七日町を実際に歩いているのです。

彼女の著した「日本奥地紀行」という書物の中では、山形を「素晴らしいところである」と紹介しています。その中で山形の人は大黒様を大事にしているという記述があり、昔から大黒様を大切にお祀りしていたことが分かります。ひよっとしたらイザベラバードが見たという大黒様は大竜寺のものだったのかもしれないですね。



次号の発行は七月七日です。来月も皆様と紙面でお会いできるのを楽しみにしています。